

# 地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：グループホーム寿生の家

施設種類：グループホーム ・ 小規模多機能型居宅介護施設（該当に○）  
デイサービス

日時： 令和5年 3月 15日 書面会議

出席者  
(人数)

利用者代表	0人	有識者	1人
利用者家族	3人	高齢者あんしん支援センター職員	1人
地域住民の代表	1人	出雲市職員	0人
その他（管理者、主任、ユニットリーダー、事務長、事務次長）			5人

## (報告事項)

### 1、利用者様状況報告（3月10日現在）

#### グループホーム

利用者数：桜棟9名 梅棟9名（男性3名 女性14名）

介護度分布：桜棟 要介護1：2名 2：4名 3：3名 4：0名 5：0名  
梅棟 要介護1：1名 2：6名 3：1名 4：1名 5：0名

平均介護度：桜棟 2.1 梅棟 2.2 全体平均 2.2

平均年齢：桜棟 89歳 梅棟 92.7歳 全体 90.8歳（最高齢 102歳 最年少 81歳）

待機者：11名

入退所：令和5年2月13日 上肢の骨折が良くなって自宅へ帰れるようになるまでの短期の予定で入所あり。

在所期間：1ヶ月目～16年4ヶ月目

## 状況報告

### 2、新型コロナウイルスについて

- ・利用者様に発熱や風邪症状などは見られず、現在も感染を疑うようなこともない。
- ・面会については2月25日より居室にて2名まで10分程度の面会が可能になった。ご家族も利用者様も喜ばれている。
- ・LINEでのリモート面会も継続して行っている。

#### 職員

- ・移動や会食等についての行動制限については緩和されたが、感染対策をしっかりと行うことは当然の事とし、常時体調チェックして何かあれば行動や症状についての報告書を提出できるように把握するようになっている。
- ・毎日の健康チェックも継続している。少しでも体調に異変を感じたら出勤しないよう注意している。まず感染を施設内に持ち込まないよう努力している。
- ・県から配布された抗原検査キットを使用して陰性を確認しながら勤務をしたり、疑わしいことがあれば毎日検査を行うことにしている。
- ・現在も昼食などを個食、あるいは黙食とし、会話の際はマスク着用している。職員同士の接触も“万一自分が感染していたら”と考えた対策を行い、感染の繋がりを断つような対策を心掛けている。
- ・マスクの使用に関して、外すことは考えていない。

### 3、活動や行事について

#### 普段の活動

家事作業全般、おやつ作り、縫い物、壁画作り（折り紙・ちぎり絵など）、歌、塗り絵、“靴下はぎれ”の作品作り、スカットボールのレク、ハンドロール作り、誕生会、散歩等々気候に応じて行っている。靴下はぎれの作品は立派なものが続々完成されている。いつか作品展でもできれば良いと思っている。

#### 行事

##### 3月3日 ひなまつり

昔ながらの甘酒を作り、桜餅でお茶会をしながら回想法をして懐かしい話を聴くことができた。お化粧をして記念撮影をした方もあった。歌も歌い、和やかな会となった。

#### 行事予定

花見：桜や菜の花などの開花に合わせてドライブなどに出かけたいと考えている。

### 4、一年を振り返って

#### 主任（梅棟リーダー）より

コロナ感染について、職員の家族や職員が感染したことがあったが、施設内に持ち込むことがなくて本当に良かったと思う。まだコロナ禍の中でも少しずつ感染状況に合わせて活動を考え、楽しんでもらえるような活動ができたと思う。

面会や外出の制限をせざるを得ない状況だったので仕方ないが、出かけることが好きな利用者様に認知症の症状の進行を感じている。そういう時期だったかはわからないが残念な思いもある。これから利用者様が楽しいと思えることを続けていきたい。

また、職員としては「働きやすい職場」を目指し、「フィッシュ哲学」を取り入れて長い間取り組みを続けている。感謝の気持ちを相手に伝えることはお互いを認め、モチベーションアップに繋がると考えられることから「サンキューボード」に感謝の気持ちやケアの内容を認める内容を紙に書いて貼るようにしている。今年度はこの活動がとても活発に行うことができたので、とてもスムーズに仕事が出来たのではないかと感じている。

#### 桜棟リーダーより

コロナ禍で外出もできず利用者様も職員もストレスを感じていたが、そんな中でも出来る事をして“笑う”ことができた。今後は条件が緩和され、外に出ることも多くなると思うので感染対策は続けながら楽しい時間を過ごしていただきたいと思う。

今年転倒・骨折で入院され、その後、グループホームに帰れなくなった方がある。独歩の方でもどのような状態の方でも転倒のリスクはある。可能な限り見守りをしたり付き添って、転倒を防いでいるが、防ぎきれない場合もあるのでそのリスクを知っていただきたいと思う。職員としてはこういうことが起こらず、穏やかに笑顔で、そして自然な形で歳を重ねてほしいので、そのために日々頑張っている。

また、食事が食べれなくなった場合経管栄養を希望するかどうか、命に関わるような状態になった時の延命などについて考える機会をもってほしいと思う。

### 5、自己評価について

職員で日頃の介護や施設の取り組みなどについて自己評価を行った。コロナ禍で十分なことはできなかったが、その中でも利用者様と一緒に取り組めることを探して行ったり、楽しんでもらえて笑顔で過ごしていただけるような関わりを持っていたと考えている。利用者様一人ひとりが出来ることを続けながら機能を維持して健康に生活できるようなケアを今後も継続していきたいと思う。前回外部評価の際の改善目標は

①スピーチロックなどのグレーゾーンと言われる行為をなくし、安全で穏やかに生活を送ってもらえるようにする。

②外部研修に参加し、広く情報を得て看護・介護にあたる。

という2点だった。

①については勉強会を行い、グレーゾーンについて学び、お互いの情報交換をして実際の介護場面

を振り返りながら考えた。

②についてはなかなか外部研修に参加できず、リモートの基礎介護研修に参加した。

施設内での勉強会は年に6回行い、実際の介護に即した内容で行った。参加率は高く、熱心に学ぶことができたと思っている。

その他、面会の制限が続いていたので、ご家族への情報提供も出来る限り細かくお伝えしたいと思っていたが、ご家族にとって十分だったか疑問に思う部分もある。今後、情報交換しながら対応していきたい。

## 意見交換

<事>コロナ関連では引き続き万全の対策をとられていることと思う。一般的には5月の5類移行に向けて意識も変わってきている様だが、医療福祉業界ではまだまだ緊張感が続いている。現に自分のいる老健では(対策をとっていたはずなのに)現在クラスターが発生している。制限を緩和したばかりの面会は再度中止せざるを得なくなり、ごく一部には職員に対して厳しい言葉を言われる方もあったが、ほとんどのご家族からはご理解いただき、励ましの言葉をいただいた。ご利用者、ご家族には不便をおかけしているが、一日も早く落ち着きを取り戻せるように願いつつ、職員は懸命に業務を行っている。

寿生の家ではコロナ禍にあっのご利用者や職員もストレスを感じているとのことだが、その状況でも常に「笑顔」が絶えない活動をされているようで、とても嬉しく思う。“働きやすい職場”づくりを意識されている寿生の家だからこそだと思う。日々の業務、大変かと思うが緊張感をもって引き続き頑張っていきましょう。

<管>世間一般のコロナは収束したかのような雰囲気でお花見しているような映像も多い。しかし、介護の現場はまだ何も変わっていない。面会を再開した途端、県外からのご家族も多く来所された。嬉しそうな笑顔もたくさんあり、良かったと思う反面、緊張もある。やはりウイルスを持って入らないことが重要だと思うので、自分たちの健康状態をきちんと把握することが大事だと思っている。老健のコロナも早く収束することを祈っている。

<あ>職員採用に苦慮される施設が多い中、働きやすい職場を目指してフィッシュ哲学の取り組みを継続され、退職なく経過されていることはとても尊いことだと思う。また、このことがご利用者様の安心・安全な生活につながっていることと拝察する。マスク着用や新型コロナへの対応が変わっていく中で今後の業務移行においてはますますこの考え方に基づいたメンバーシップが重要になって来るのではないかと推察した。これからのますますのご発展をお祈りしている。

<管>職員が定着していることはすべてのことにプラスになっていると感じている。認知症介護は馴染みの関係が不可欠なので、このまま安定した運営が出来るよう取り組みを続けていきたいと思う。取り組みを評価していただき感謝している。

<次>面会が再開になっているのでご家族と触れ合える時間が増えて、笑顔になられると良いと思う。職員にはまだ行動せ減など不便をかけていると思うが、老健では感染者が出ているので感染対策は継続してほしい。

<管>まだ気は抜けないと思っている。引き続き、頑張っていこうと思う。

<家>いつも本当に良くしてもらって感謝している。何も言う事はない。

<家>安心してお任せしている。面会が出来るようになって良かったと思う。

<家>いつも良くしてもらっていると感謝している。面会が出来るようになり、人数制限はあるが、親戚の方にも会えてもらって、喜んでいる。コロナはまだ一部では収まっていないので心配している。

<管>面会に関しては可能になってこちらも喜んでいる。コロナ対策は引き続き行っていきたい。面会もひ孫さんの顔を見せたいというような要望が多いので、その際は外のベンチのところで会っていただくようなことも考えている。

<地>面会ができるようになったとのこと。やはり、利用者様は喜んでおられると思う。体調の悪い方はおられないか？

自己評価を見せてもらったが、低く評価しているのではと思った。もう少し評価は高いと感じる。謙遜ではないか？

また、今日、送迎中の車の事故のニュースを聞いた。こういう心配もあるのではないかと思います。

<管>やはり面会は必要だと感じている。感染対策をとりながら居室で面会されている。体調の悪い方もなく、お元気に過ごされていて、あちこちの桜を見にお出かけされたりしている。評価に関しては嬉しい言葉を聞いたと思う。理想は高くということで、今後もしっかり取り組んでいきたいと思っている。デイサービスもグループホームも車での移動がある。事故は他人事ではない。注意していきたいと思う。

以上